

2015



平成27年6月 発行

No. 97

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市 泉 菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018(823)2708

発行者 今 野 昌 雄

編集者 鈴 木 裕 子

平成27年度 秋田支部総会

平成二十七年年度支部総会開催される

平成二十七年年度秋田支部総会は、四月四日午後二時から、秋田市の「協働大町ビル」において開催された。

総会は、鈴木(裕)副支部長兼事務局長の進行で始まり、会員総数六十二名、出席会員二十一名、委任状提出会員三十名を確認。

はじめに、今野支部長から、会員の皆様のお蔭で五十五周年記念事業を無事に終えたことに感謝し、山に対する心が元気の源であってほしいと共に、今後とも支部運営へのご協力をお願いする旨の挨拶があった。

続いて、三浦眞六委員を議長に指名して、案件の審議が行われた。

案件一 平成二十六年度の事業について鈴木(裕)副支部長が報告。

昨年度は、支部設立五十五周年であったことから、それに関係する行事、秋田県の山五十五座ラリー、県外山行、標高五十五番目の山・横長根への山行、祝賀会、春・秋の支部山行等、公益的事業として太平山前岳にベンチを設置したことや、歩道の一部の刈り払い、太平山山開き市民登山への協力、会報の発行は四回、支部長会議、支部事務局担当者会議、東北・北海道地区集会や全国支部懇談会、年次晩餐会への出席等の報告。また、当支部の自然保護委員が自然観察会等で指導し、公益的活動をしていることや、本会創立百十周年記念事業の一つである、「改訂版・新日本山岳誌」発刊のための執筆依頼

があった事等が報告された。

案件二 平成二十六年度収支決算について、石川会計担当委員が報告。高橋会計監事から、四月一日、秋田市のアルヴェ市民交流室において行われた会計監査の結果、関係書類が適正に処理されていることが報告され、事業及び決算は承認された。

案件三 平成二十七年事業計画は、鎌田委員から春秋の山行について、堀井副支部長から、公益的事業として、太平山前岳に設置したベンチの補修、明田富士山の標柱の補修やベンチを設置する事等の案が説明された。

鈴木副支部長からは、会報の発行、東北・北海道地区集会、全国支部懇談会や本会創立百十周年晩餐会の説明。また、二十八年度に実施する東北・北海道地区集会の主管を担当することから、その事業を三浦眞六委員に担当をお願いした。

案件四 平成二十七年予算案について石川会計担当委員から、支部会費、本会の助成金・補助金等について説明。事業計画、予算案ともに承認された。

総会は午後三時三十分頃終了し、引き続き懇親会が行われ、佐々木(民)顧問の乾杯の発声ではじまった。

懇親会は、五十五周年の記念事業の話題や、二十八年度開催の地区集会、山情報の交換等、会員の交流を深め、午後五時頃、寺田会員のお開きの乾杯で散会した。



お礼 次の方々からご芳志を頂きました。厚くお礼申し上げます。

一万五百円 鈴木要三

五千元 進藤 昭 安藤武俊

四千五百円 長岩嘉悦 佐藤昭義

四千元 北林嘉鶴子

清酒 鈴木裕子 佐々木長秀

出席者(順不動)

佐々木民秀 奥村清明 北林嘉鶴子

今野昌雄 柳田勇悦 若月寿

鈴木裕子 堀井 弘 鎌田倫夫

佐藤 博 高橋忠雄 寺田新一

石川祐子 柴田 勲 三浦眞六

佐々木長秀 安藤金栄 高橋洋二

藤田正義 澤田石一夫 佐藤英貴

懇親会のみ 小笠原義雄

「明田富士山」でお花見を楽しむ

佐々木 民 秀

平成元年十二月九日、支部設立三十周年記念事業として明田富士山(三五四m)に「日本一低い富士山」の標柱を設置し、全国的に「日本一低い富士山」としてビュ。 (会報No.十七参照)

その「明田富士山」に、平成十一年六月二十八日、秋田支部設立四十周年記念事業として桜を植えた。

あれから早や十六年の歳月が過ぎ、お花見会を開こうと、今年の総会で提案され、四月二十二日、会員十四名が参加して、植樹してから初めての花見会が行われた。



この桜の苗木は、故鈴木幸雄会員が探し求めたもので、今日では目通り六十cmの太さまで成長している。



当日は、「日本一低い富士山」の標柱の消えかかった文字を補修し、周囲を清掃するなどをした。

快晴で桜満開の昼下がり、和気あいあい山談義に花を咲かせ、各々持参の手弁当を広げ、進藤名誉顧問から、堀井副支部長にJACのキャブが贈られたり、堀井副支部長お得意のハーモニカ演奏に合わせて山の歌を大合唱、賑やかに大いに楽しんだ。

尚、四月十六日、前もって明田町内会の許可を得て、堀井副支部長の指導の下、ベンチを設置した。
以前からあるベンチにもペンキを塗り、とても綺麗になり、町内会からも喜ばれている。



参加者十六日

佐々木民秀 鈴木裕子 堀井 弘
鎌田倫夫 佐藤 博 石川祐子

参加者二十一日

進藤昭 佐々木民秀 北林嘉鶴子
福田光子 今野昌雄 柳田勇悦
鈴木裕子 堀井 弘 鎌田倫夫
佐藤 博 石川祐子 柴田 勸
佐々木長秀 佐々木悦子

「明田富士山」ガイド

明田地下道をくぐり、東大通りを右折し、明田の突き当りに案内板がある。

そこを左折し、富士山裾野(?)を回り込むと、鳥居と標柱の立つ登山口に出る。(登り五分程)。

すぐ近くに磯前神社があり、明田近隣公園として親しまれている。

会務報告

◎役員会を開催

二月二十六日、午後一時から秋田市中央公民館会議室で開催。

二十七年総会に提出する議題・案件等について協議。二十六年決算見込み、二十七年事業案等について検討。

二十八年度に主管として開催する「東北・北海道地区集会」についても話し合いが行われ、三浦真六委員に主担当を、鎌田、佐藤(博)、佐々木(長)の各委員にお願いすることを案とした。また、本会創立百十年記念事業として発行される「改定・新日本山岳誌」の進行状況が佐々木(民)顧問から説明があった。その他。

出席者

今野(昌) 鈴木(裕) 堀井 鎌田
佐藤(博) 石川 三浦(真) 佐々木
(長) 安藤(金) 藤田
高橋(忠) 佐々木(民)

◎会計監査

四月一日、午後一時三十分から秋田市アルベエ市民交流室で開催。

二十六年支部会計決算を審査
出席者 高橋(忠) 監事 石川会計担当
鈴木(裕) 副支部長

佐々木(民) 顧問
大山監事は所用のため欠席

支部会員の動向

退会 加賀谷 昭 一(二十七年三月)

「春の里山山行」報告 柴倉山と名高山

石川 祐子

春と秋には里山の日がある。と、年間行事としての知名度(?)も上がってきたようだ。

今回は、由利高原鉄道鳥海山麓線が走るのどかな風景の中、「柴倉山(三二〇m)」と「名高山(二九六m)」に向かった。

道の駅岩城と前郷駅で四台に分乗し、まずは柴倉山へ。



柴倉山山頂神社前で

濃い紫色をしたオダマキが盛りの道は広さもあり、緩やかに進むためか参加者の会話も弾んでいる。途中、鳥居

からのコースと合流し、少し登ると子供を抱いたお地蔵様を祀っている御堂があり、側には四等三角点がある。近くにテレビ塔もある。ここまではおよそ三十分程だ。

山頂へはあと三十分くらいか。この山は、距離は長いものの、山頂手前が多少急坂になるくらいで、ゆっくり歩くと息切れもせずに登ることが出来る。参加者は、道路わきのワラビ探しをするなどのんびり楽しんでいる様子だ。十時三十五分、柴倉神社が建つ山頂に到着した。神社の中もきれいに清掃されていて、辺りは桜の木を記念植樹して公園のようになっていた。

支部長気遣いのまだ冷たさの残るバナナ休憩。記念写真のあと鳥海山や丁岳を眺める展望スポットを通過して旧道を通り、登りのコースと合流。ここから鳥居口へ降りることになった。分岐地点は草が被さっているが、道は分かりやすく、鳥居の近くには山の神を祀った神社が建っていた。十一時五十分、駐車地点へ。

名高山で昼食を摂ることにし、すぐに移動。一〇八号線の吉沢橋の手前を左折し、線路を越えて急坂を登る。しばらく畑の中を進むと鳥居のある登山口に着く。

ほとんど直線の登山道を行くと、十五分程で神社に着き、神社裏のやや急斜面の藪の中を五分間格闘して、名高山の山頂に着く。三等三角点がある。

そして一段下にも神社があった。ここで、故柴田第二代支部長から五十年程前に寄贈された支部旗を広げ、記念写真。(虫干しも兼ねました。)

「もう腹ペコだ!」「早く食べよう!」期待通りの昼食タイム。各自持参のおかずやおやつが回ってきて、とても賑やか。笑い声が絶えなかった。



名高山山頂で支部旗の虫干し

さて、帰りは、「ザックは軽く、腹重く」発つ時のみんなの様子だ。(笑)

快晴のもと、鳥海山の笑顔が時折迎えてくれる中で春の里山山行を終え、一同満足のあと、思いがけない「おみやげ」を柴田会員の案内でもらった。鳥海山頂に至る滝沢口登拝道の起点「森子大物忌神社」だ。ここから修験者たちは二泊三日ほどをかけて山頂へ向かったのだという。

八乙女山の「鳥海山様」(祀られている自然石とのこと)に会えば少しでもその当時に触れることが出来るだろうか?

今回の安全山行のため、準備を整えてくれた鎌田委員、ありがとうございました。そして皆さんお疲れさまでした。

参加者 佐々木民秀 今野昌雄
柳田勇悦 鈴木裕子 鎌田倫夫
佐藤 博 高橋忠雄 石川祐子
柴田 勲 佐々木長秀 佐々木悦子
藤田正義 澤田石一夫 佐藤英實
会員外 鈴木茂夫 柳田ルイ子
吉川昭子 佐々木玲子

新日本山岳誌

本会百周年記念企画として刊行された「新日本山岳誌」を、本会創立百周年記念企画としてその「改訂版」を出版するため、昨年九月に開催された支部合同会議で、各支部にその校正を依頼された。

秋田支部の総括担当を佐々木(民)顧問に依頼。

執筆者の中で、諸般の事情により辞退された方々もおられたが、佐々木(民)顧問が了解を得て訂正加筆し、共同執筆者として掲載される。

佐々木顧問が各執筆者と連絡を取り、原稿の取りまとめを行い、二月十八日、「改訂版」を編集する奥多摩館に送付した。

秋田支部担当者 保坂隆司 長岩嘉悦
安藤武俊 佐々木民秀 奥村清明
今野昌雄 鈴木要三 真坂洋一
柳田勇悦 鈴木裕子
藤原健 加賀谷昭一 土肥貞之

山を歩いて 気がつけば六十年

長 岩 嘉 悦

私は日本山岳会秋田支部設立当時より入会し、山の自然が好きで、山を歩き、スキーをして、高校、大学で山岳部に入部。社会人になっても「横手美入野岳友会」や「増田山岳会」を創設して、各種大会に参加し、高体連、県体、国体等に選手として、また、役員、審査員として関わり続け、山歩きをして来ましたが、八十一才を過ぎて限界を感じています。

今、過去を振り返ってみるに、思い出に残る山行は沢山ありますが、その中から拾ってみますと、昭和三十二年（一九七五年）十二月三十一日に、横手高校山岳部員を隊員として、秋田県初の冬山秋田駒ヶ岳登山に成功したことが記憶に残っている。森山荘をベースとして行動したので、今も毎年五月末に定例山行として森山荘をベースにして一泊二日の山行を続けている。

次に、国体出場については、第九回北海道大雪国体、第十六回秋田駒ヶ岳八幡平国体、第十九回新潟飯豊連峰での経験を持っている。

海外では、昭和四十三年（一九六八年）秋田県山岳連盟隊として、横手美入野岳友会が母校七〇周年記念事業として、当時の台湾の最高峰玉山（三九七九m）と第二峰雪山（三八八九m）の冬山登山に登頂している。

韓国では、昭和四十五年（一九七〇年）の一月に、最高峰漢拿山（一九〇五m）と第三峰雪岳山（一七〇八m）

に横手美入野岳友会として三人で登頂している。

春山では、平成十一年（一九九九年）支部設立四〇周年事業として五月十九日から二十四日まで、雪岳山と五台山（一五六三m）に登頂。平成十二年（二〇〇〇年）六月四日から十日まで、漢拿山、俗離山（一〇五九m）に秋田支部山行として登頂している。

山の思い出の本として、平成十八年（二〇〇六年）秋田無明舎出版により、ホームグラウンドである焼石岳について「焼石岳に魅せられて」という題名で自費出版した事柄が思い出として消えることのない、懐かしい思い出である。焼石岳九合目の焼石神社の所には、二百回と五百回登山の記念碑を奉納している。焼石岳に登山した際には是非見てほしいものです。



焼石連峰の一つ三界山に登って
（後峰は三界山）

また、平成二十三年には、東成瀬村の「なるせ児童図書室」に山岳関係図書や焼石岳の写真集を寄贈し、特別展示会が開催されたことも思い出される。益々の秋田支部の発展を祈りつつ、山歩きを続けて元気でいる自分に喜びを味わっている。

関西支部設立八十周年 記念式典開催

一九三五年（昭和十年）に、最初の支部として設立された関西支部の八十周年記念式典が、五月三十日午後二時三十分から、神戸市・ホテル北野ブラザ六甲荘で開催され、佐々木（民）顧問、鈴木（裕）副支部長出席。

初めに、主催の重広関西支部長が挨拶、続いて森本会長の挨拶の後、来賓の大阪府山岳連盟理事長飛田実男氏と兵庫県山岳連盟会長中西研一氏からお祝いの言葉があった。

続いてのフォーラムは、「但馬が生んだ孤高の登山家・加藤文太郎と植村直己」と題して、平林克敏元本会副会長が講演。続いて加藤芳樹会員らによる朗読劇「ある登山家の追想」が演じられた。

記念撮影後、午後七時から、斎藤惇生元本会会長の乾杯で祝賀会が開催され、リビート山中氏による歌とトーク、各支部の紹介等々。また、設立八十周年記念事業で行う東ネパール・ナンマガリII峰（六二二一m）からI峰（六五四七m）への縦走登山隊員の紹介等、大いに盛り上がり、九時過ぎに閉会。

翌日の記念山行は不参加。清瀬祐司関西支部会員の案内で、大山と蒜山に登った。

行事参加報告

◎秋田県山岳連盟総会

四月十九日、午後一時三十分からイヤタカで開催。役員・代議員（十九名）席。二十六年度決算、二十七年事業等審議。

支部関係出席者
今野昌雄 小野信也 佐々木長秀

訃報

―― 李来城氏逝去 ――

長年、当支部と親交のあった韓国山岳会・同元老会会員の李来城氏は、病氣療養中のところ、昨年十一月、入院先の病院で永眠されました。

（享年七十八才）

李来城氏は、PCコンクリート製品を製造する企業家で、故曹斗鉉氏や裴三鎮氏等と共に、度々秋田を訪れて下さった。また、訪韓登山の度ごとに、歓迎の宴を開いてくださるなど、秋田支部会員との交流を大事にしていた。心からご冥福をお祈り致します。

元会員 深井是之氏は、病氣療養中のところ、四月七日逝去されました。心からご冥福をお祈り致します。

（享年八十一才）